

ICT活用工事（浚渫工（港湾・漁港））計画書

当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、
ICTを活用する場合は、左端のチェック欄に「レ」と記入する。

施工プロセスの段階	作業内容	採用する 技術番号 (参考)	技術番号・技術名
<input type="checkbox"/> ①3次元起工測量			1 マルチビームを用いた深淺測量
<input type="checkbox"/> ②3次元数量計算			
<input type="checkbox"/> ③ICTを活用した施工			1 グラブバケットの平面位置と目標浚渫位置・深度をリアルタイムで可視化する技術 2 カッターヘッドの平面位置と目標浚渫位置・震度をリアルタイムで可視化する技術 3 バックホウのバケットの平面位置と目標浚渫位置・震度をリアルタイムで可視化する技術
<input type="checkbox"/> ④3次元出来形測量			1 マルチビームを用いた深淺測量
<input type="checkbox"/> ⑤3次元データの納品			

注) 平面図、代表断面図、縦断面図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。

ICT活用工事（基礎工（港湾・漁港））計画書

当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、
ICTを活用する場合は、左端のチェック欄に「レ」と記入する。

施工プロセスの段階	作業内容	採用する 技術番号 (参考)	技術番号・技術名
<input type="checkbox"/>	①3次元起工測量		1 マルチビームを用いた深淺測量
<input type="checkbox"/>	②3次元数量計算		
<input type="checkbox"/>	③ICTを活用した施工		1 捨石投入用バケット位置と目標投入位置をリアルタイムで可視化する技術 2 均し機の位置と目標均し高さをリアルタイムで可視化する技術 ※複数の技術を組み合わせて採用しても良い
<input type="checkbox"/>	⑤3次元データの納品		

注) 平面図、代表断面図、縦断面図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。

ICT活用工事（ブロック据付工（港湾・漁港））計画書
 当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、
 ICTを活用する場合は、左端のチェック欄に「レ」と記入する。

施工プロセスの段階		作業内容	採用する 技術番号 (参考)	技術番号・技術名
<input type="checkbox"/>	③ICTを活用した施工	/		1 据付ブロックの位置と目標据付位置をリアルタイムに可視化する技術 ※「①超音波によるリアルタイム水中可視化（水中ソナー）」「②GNSSによる位置決め（GNSS）」 「③方位・船体動揺の計測、補正（慣性航法装置等）」 「④水中音速による距離補正（水中音速計）」の機器を組み合わせ、対象物の計上と位置を確認できる技術を用いた施工」を想定しているが、調達が困難である場合や使用条件が合わない場合等は監督員と協議の上施工内容を決定する。
<input type="checkbox"/>	④3次元出来形測量			1 マルチビームを用いた深淺測量 2 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 3 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ※3次元測量は、ブロック据付工の数量算出、出来形確認に使用することを目的とするのではなく、完成後の維持管理のための完成形状を把握するためのデータを取得することを目的とするため、ブロック据付完了後、構造物が完成形状となった場合にのみ行う。 ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。
<input type="checkbox"/>	⑤3次元データの納品			

注) 平面図、代表断面図、縦断面図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。